

# 琉球・沖縄 年中行事

## ？なんでも！ Q&A

### ウコールについて



●Answer

沖縄市・コザ山 球陽寺 前住職  
帰依 龍照 (きえりゅうしょう)

**Q** 「このウコールを  
台所に置いてちやダメ  
よ」と友達から驚かれました。  
母は、「白より青の方が  
キレイだから大丈夫よ」と  
言います。色が違う程度で、  
何か問題ありますか？

(K市Aさん)

**A** ウコールについてのご質問ですね。Aさん、色の違いの意味ですがなさそうであるんです。(汗) ウコールとは、ヒラウコー(平御香)・線香などを焼香する、仏具・神具の香炉(こうろ)のことをいいます。コールと言う方もおられますが、沖縄の仏事・年中行事など、改まったときには、御香炉(おんこうろ)と格式を高める意味で、心得のある方はウコールと言います。これは、ウチャト(御茶湯)・ウシミ(御清明祭)など、ウから始まる言葉が、御の尊称を表すということに通じます。沖縄のウコールには、大別して、カナゴール(金香炉)とドゴール(土香炉)があります。読んで字のごとく、カナゴールとは、真鍮(しんちゅう)などの金物製のウコールのことをいい、ドゴールとは、焼物などの土・石製のウコールのことをいいます。ドゴールは、さらに大別して、ハナウコール(花香炉)とカミウコール(神香炉)があります。ハナウコールは、別名、イルウコール(色香炉)ともいい、紺色の釉薬(ゆうやく)に蓮華(れんげ)・青葉の模様が特徴です。

家庭では、ブチダン(仏壇)で荘厳(しょうごん)に使用するウコールですので、ブチダンウコールともいいます。また、カミウコールは、別名、シルウコール(白香炉)ともいい、白色、または青磁色の釉薬に無地が特徴です。家庭では、ヒヌカン(御火之神加那志)・トウクヌカン(御床之神加那志)などで荘厳するウコールですので、ヒヌカンウコール・トウクヌカンウコールなどともいいます。ウコールを使用する場所については諸説ありますが、今回は、ウコールの色彩模様のデザインの観点から考えていきましょう。まず、ハナウコールは先述の通り、紺色の釉薬に蓮華・青葉の模様が特徴です。このうち、蓮華には、以下の意味があるといえます。

◎散り蓮華説(仮称)

蓮華とは、蓮の花を意味します。蓮の花は散ると、散り蓮華といえます。中華料理のチリレンゲのスプーンは、この散り蓮華を形容しているといえます。散り蓮華は、花びらにある細かな花毛(かも)う)や舟形の形状から、水中に沈まず、水面に浮く特徴があります。ここから、古来、故人様が地獄に沈まず、極楽に浮く(成仏する)ようにとの思いで、仏事などに蓮華を使用するようになったという説。

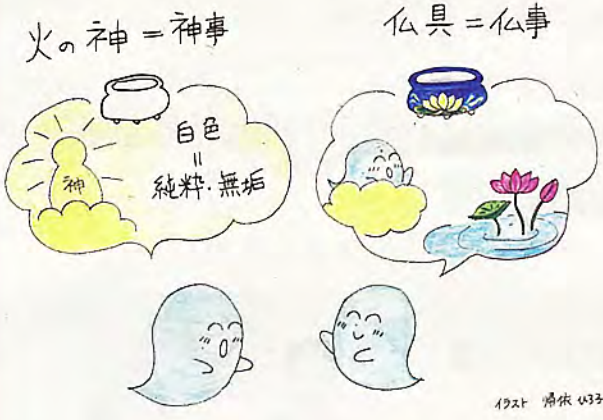
◎蓮根(れんこん)・蓮華説(仮称)

水上にある蓮華は、水中の

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のごとく。迷える人間界にあつても臨終には、湖の上の蓮華のごとく。悟れる仏世界に往生するように、との思いから、仏事などで蓮華を使用するようになったという説。

このような考え方は、御仏前・御香典など、金封(きんぷ)の表紙に蓮華のデザインを描くようになった理由だともいいます。一方、カミウコールも先述の通り、白色、または青磁色の釉薬に無地が特徴です。このうち、白色・青磁色の釉薬には、鉄・リンなどの含有が少ない石灰を使用していることから、混ざり気のない純粹無垢(むく)を表すとい、神事などで使用するようになったとの説があります(ハナウコールの紺色の釉薬には、鉄・リンなどの含有が多い草木灰を使用しています)。以上の考え方から、ハナウコールは、ブチダンの仏具の香炉といいい、カミウコールはヒヌカンなどの神具の香炉といえます。

さて、今回のご質問ですが、Aさんのご家庭では、諸事情があり、どうやらブチダン用のハナウコールをヒヌカン用とされているみたいですね。お友達が「台所に置いてちやダメ



よ」とおっしゃるのは当然、驚かれるのも無理はありません。ヒヌカン用のウコールは、カミウコールが一般的ですから。Aさん、今回は、お友達のアドバイスに感謝しつつ、今日まで大切にされてきた台所のハナウコールからカミウコールに交換されることをお勧めします。日程は沖縄の仕来り(しらいり)を重んじるなら、ウグワフトウチ(御願解き)の旧暦12月24日(平成29年1月21日)・ヒヌカンウケンケ(火之神案内)の旧暦1月4日(平成29年1月31日)となります。

ウコールを「キレイだから大丈夫よ」とおっしゃられているお母さんの考え方は、個人的にプラス思考で大好きな発想です。お母さんには、「青色もキレイだけど、白色も同じようにキレイだから交換しましょうね」と優しく伝えてあげてくださいね。